

## 今回の旅のおとも



## 新編 日本の怪談

ラフカディオ・ハーン(1850~1904年)の代表作を集めめた角川文庫版の作品集(池田雅之編訳)。「耳無し芳一」「雪女」「鳥取の布団の話」などを収録している。「布団の話」や「水あめを買う女」などは、ハーンが1894年(明治27年)に出した日本での初の著書「知られぬ日本の面影」に収録され、26刷を重ねるベストセラーとなった。

ハーンは96年に小泉八雲の名で日本国籍を取得。松江を離れた後、現在の熊本大や東大などでも英語や英文学を教え、教育者としても高い評価を得る一方、日本での著作は十数冊を数えた。

津波(tsunami)という言葉が海外で使われるようになってしまったのも、ハーンが採集した民話による影響。作品は子供向けのものも含めて日本で数多く出版されており、怪談集は岩波文庫からも出ている。

ハーンのひ孫で小泉八雲記念館長の小泉凡さんは島根県立大垣大部教授として民俗学を教えている。

小泉八雲記念館の館長を務めるハーンのひ孫の小泉凡さん。「21世紀の世界は、異文化を理解し共生を目指すハーンに学ぶ必要がある」と強調する=松江市奥谷町



「小泉八雲」という名の由来となつた「八雲立つ出雲」の古歌で知られる松江市内の八重垣神社。若い参拝客が境内の「鏡壇の池」に浮かべた和紙に硬貨を載せて恋愛占いをしていた



怪談、幽霊話に熱中したとい  
うイメージのあるラフカディオ  
・ハーン。実は戦後の日本の  
形に関わる大きな足跡を残して  
いた。

2015年に国宝に指定され  
た松江城の近くに小泉八雲記念  
館。その隣にハーンとセツ夫妻  
の旧居が並んでいる。記念館の  
館長、小泉凡さん(55)は夫妻の  
ひ孫。「私の名前は祖父の一雄  
が連合国軍司令部(GHQ)  
のボナー・フェラーズ准将にち  
なみ、「日米の懸け橋」にと名  
付けたと聞いています」と一家  
の歴史を語ってくれた。

フェラーズ准将は、ハーンの  
愛読者で、戦前から来日し、遺  
族宅も訪問していた。GHQで  
マッカーサー最高司令官の副官  
を務め、占領政策を立案する。  
その焦点が天皇の戦争責任だっ  
た。准将は、天皇制度の存続を  
強く進言している。

「地方の民衆が、國家神道と  
は無縁に素朴な気持ちで天皇を  
敬っていることをハーンの著作  
で知っていたからでしょう」と  
小泉館長は推測する。

ハーンは松江藩在中の1889  
年(明治24年)8月、島根半  
島で日本の巡洋艦を見た。

「その建造費用は膝まで没す  
る泥田で骨折りながら、そのコ

メを食べられない数百万の貧民  
が出している。破壊の目的のた  
めの科学の奇怪な創造物」  
と、紀行文に書いたこの思想に、  
想がのぞく。明治の日本が富國  
強兵とは違う道を歩んだなら  
「島取の布団の話」のような悲  
劇も起きなかつただろう。

日清・日露戦争の勝利に沸き、  
おこり高ぶる国民を見て、「将来  
の危機がある」と懸念し、戦場  
の教子に手紙を書き送つても  
いる。後の悲惨な敗戦を予見し  
ていたとも言えよう。

「ハーンの予測通りに日本が  
ハーンの歴史認識に敬服し、韓  
国や中国などの平和の推進を  
目指している。

水利施設の集中制御・監視シ  
ステムや高速シートシャッター  
で知られる小松電機産業の社長  
で、平和や環境問題を発信する  
ため設立した財團法人人間自然  
環境を開拓し、共生よりも自  
己の利益を叫ぶ政治指導者が世  
界中に目立つ。昨今だが、「対立  
が深まる時代こそ、異文化を理  
解し、共生を目指すハーンの精  
神が求められる」と小松さん。

ハーンが愛した出雲の地から、  
科学研究所の理事長、商用で訪  
れた韓国で不愉快な思いをさせ  
られたことから、日韓関係を学  
び始めた。

例えば、伊藤博文を暗殺した  
安重根は韓国では「英雄」だ  
が、日本では「テロリスト」と  
扱われ、評価は対立。従軍慰安  
婦や領土問題でも両国の溝は深  
い。小松さんは、ソウルにある  
安重根義士記念館を何度も訪れて  
おり、施設改修のために寄付  
も行った。

中国の南京大虐殺記念館へも  
経済人の見学を率いるなど訪問  
したこともある。同記念館の朱成  
山名誉館長とは各国の平和記念  
館同士のネットワーク作りや戦  
争で犠牲になった人たちの名を  
祀るモニュメント設置を協議し  
ているという。

# 平和と共生 著作の根底



平和活動に取り組む小松さん。会社のロビーにはノーベル平和賞を受けたオーストリアの作家ズットナーの像が置かれていた



念願の国宝に指定され、観光のけん引役と期待されている松江城

## 難読地名 アイヌ語と関係?

て風車が回る風景が見られ  
る。

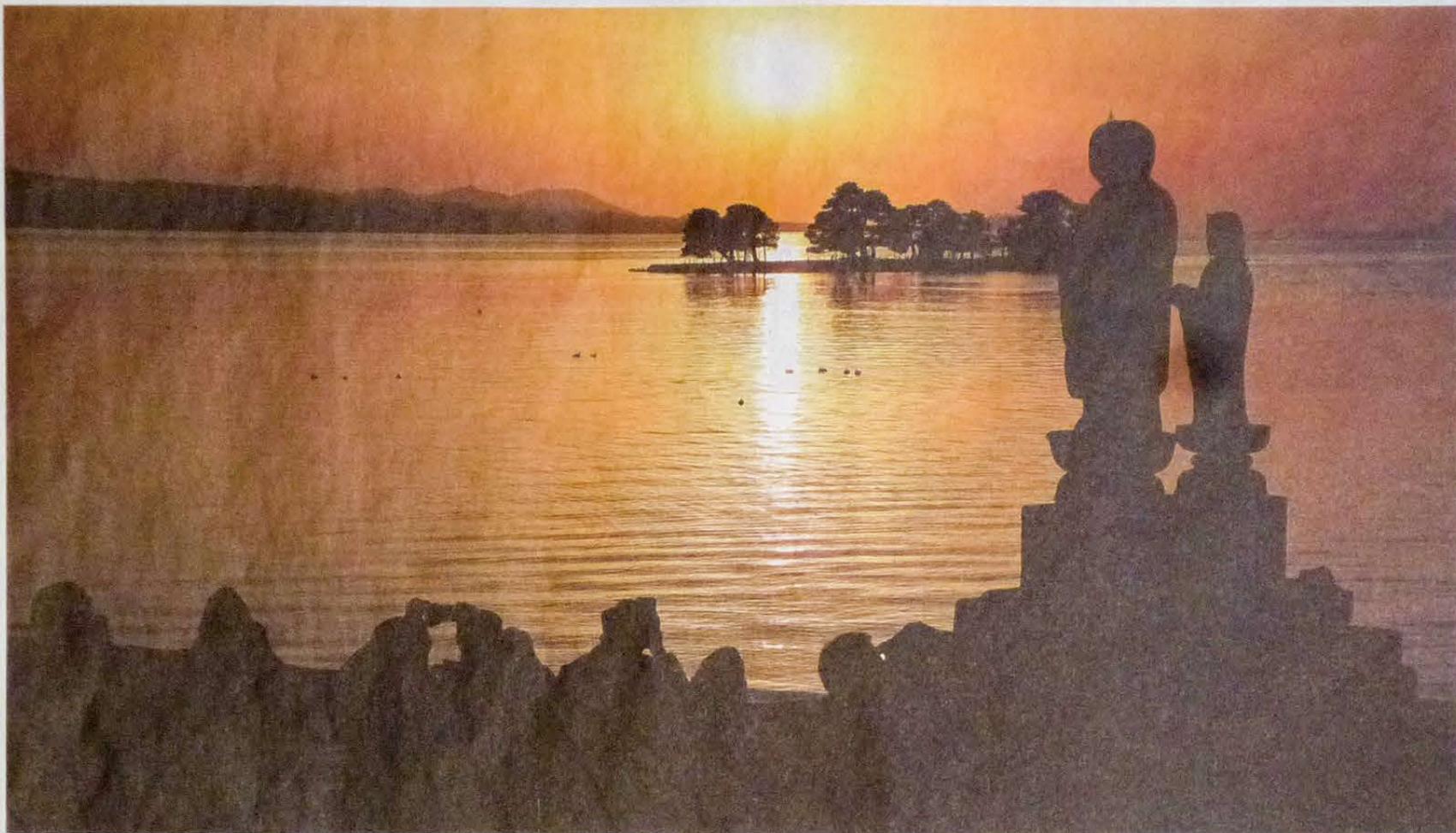
ラフカディオ・ハーンの親  
友で勤務先の島根県尋常中学  
校(現・松江北高)の教頭だ  
った西田千太郎は、これらの  
地名がアイヌ語の可能性を検  
討した。ハーンを介してアイ  
ヌ語研究で知られる札幌在住  
の宣教師ジョン・パチャエラ



松江市や隣りの出雲市には、北海道と同じく読みにく  
い地名が多い。例えば、十六島  
と書いて「うつぶる」。「名  
産の岩ノリを打ち振るって乾  
燥させた」が語源といつ。恵  
雲、出雲郷なども難読地名だ。  
松江には七類、道内には忠  
類、サンルイ岬など「るい」  
が付く地名があるのも共通  
点。十六島の海岸近くには發  
電用の風車がたくさん立つて  
いた。道内の宗谷管内に轄延町  
音類でも日本海の風を受け

て。風車が回る風景が見られ  
る。

ラフカディオ・ハーンの親  
友で勤務先の島根県尋常中学  
校(現・松江北高)の教頭だ  
った西田千太郎は、これらの  
地名がアイヌ語の可能性を検  
討した。ハーンを介してアイ  
ヌ語研究で知られる札幌在住  
の宣教師ジョン・パチャエラ



宍道湖の湖岸の仏像と小島を結んだ先に沈むつとする太陽。「タロスボット」に集まつた人々が、あかね色の水平線に向かつてシャッターを切つていた。—松江市

するとすぐに、先ほどの悲しげな声が聞こえてきました。（中略）  
 「あにさん、寒かろう」  
 「おまえ、寒かろう」  
 ここへきて初めて、客はぞつと寒気がしました。

ラフカディオ・ハーン「鳥取の布団の話」

冬の山陰には珍しく雲一つなか  
つた松江の一日が暮れようとして  
いる。カメラを手にした人々が、  
撮影におすすめの宍道湖畔の「タ  
ロスボット」に集まってきた。

1890年（明治23年）、40歳  
で松江に来島根県のお雇い英語  
教師、ラフカディオ・ハーン（小  
泉八雲）も、この場所から見る夕  
日を愛した。

ギリシャ生まれ、アイルランド  
で育ち、米国南部でアフリカ系の  
人々の文化に親しむなど、異文化  
への理解を重ねてきたハーンは、  
松江でもすばらしい語り部に出会  
う。夕日が沈み、夜になると、後  
に妻となる小泉セツが幽霊たちが  
躍動する物語を語ってくれた。

「鳥取の布団の話」は、宿屋で  
眠りについた客が、凍える幼い兄  
弟の声で目を覚ます。客が寝てい  
た布団は実は、両親を失い家賃を  
払えなくなった兄弟から強欲な家  
主が取り立てたものだつた。…。  
来日前、米国ではジャーナリス  
トのかたわら、作家として民衆に  
伝わる説話を洗練された物語に仕  
立て上げる「再話」を目指してい

た。布団の話を聞くと「あなた  
の手伝いできる「です」と驚喜  
した。セツ夫人の「思い出の記」  
に、そうつづられている。

古い城下町、松江は怪談の宝庫  
だ。夜な夜な大きな鬼が暴れだす  
「月照寺の人食い鬼」。亡くなっ  
た妊婦が、墓の中で産んだ赤子の  
ためを賣う女」…。セツ夫人が語  
り、ハーンの筆で紡がれた怪談と  
紀行文は英語圏で大きな人気を呼  
び、日本に逆輸入された。

松江では3～12月に「ゴースト  
ツアー」が行われる。夜中に懐中  
電灯を手に、ハーンの怪談にまつ  
わる寺院などを巡る趣向。NPO  
松江ツーリズム研究会の畠山真奈  
美さん（30）は「外国语のできる方  
イドを養成して、外国人も楽しめ  
るようにしたい」と話す。

ハーンが松江に滞在したのは1  
年2カ月の短い期間だったが、マ  
チの活性化に、今もその遺産が息  
づいている。

文・中尾 吉清  
写真・村本 典之  
II 2面に続く

# 日曜 navi

## CONTENTS

星占い

2月20日～26日の番組表

味彩ファイル  
おしゃべりルーム  
プレゼント

07